

第1回～第142回

☆放送局及び期間☆

放送局	期間
ラジオ関東	昭和43年11月～46年7月
中部日本放送	昭和43年11月～46年7月
近畿放送	昭和43年12月～46年7月
RKB毎日放送	昭和44年11月～46年7月

RKB毎日放送は第52回から放送

司会：宇井昇

☆放送リスト凡例

- | | |
|-------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目 | ④放送概要 |

・年月日は、4局の中で一番放送日時が早いラジオ関東の放送日を記載。

・「①サブタイトル」は木村孝雄自費制作LP同封③に準拠。

・「②出演者」にはスタジオへの出演者のみを記し、電話での出演者は「④放送概要」に記述。

・「③曲目」は各新聞(主に中日新聞と京都新聞)のラジオ欄の記述を元にした。そのため、放送されたすべての曲目を網羅しているわけではない。また、放送された音源の歌唱者が明示されている場合のみ、括弧書きで歌唱者名を付した。

・「④放送概要」は各新聞(主に中日新聞と京都新聞)のラジオ欄の記述を元にした。

昭和43年11月10日

- ①「上原敏」 #1
- ②上原未亡人、島田馨也
- ③「妻恋道中」「流転」「裏町人生」「波止場気質」
- ④ かつて活躍した歌謡曲歌手や作曲家、作詞家などをゲストになつかしのメロディーを聞く。第1回は、かつてポリドールの専属歌手だった上原敏の特集。
スタジオには「裏町人生」「波止場気質」など上原敏と組み、一連の”人生もの”でヒットを飛ばした詩人・島田馨也と、上原敏の未亡人・松本澄子を招き、過ぎし日の上原敏を偲びつつ対談、その間に上原敏のデビュー曲「妻恋道中」や「流転」などの道中もの、「裏町人生」や「波止場気質」などのヒット曲を聞く。

11月17日

- ①「上原敏」 #2
- ②上原未亡人、島田馨也
- ③「従軍記者」「上海だより」「声なき凱旋」「鴛鴦道中」
- ④ 上原敏特集その2。スタジオには「裏町人生」や「波止場気質」など一連の人生ものの詩を書いた島田馨也と、未亡人の松本澄子を招き、上原敏のヒット曲を聞きながら思い出話にふける。
ニューギニア戦線で戦病死した上原敏の文字通り「声なき凱旋」の歌は、スタジオの未亡人を激しい感動の渦に巻き込み、歳月を忘れた新しい思い出で、未亡人が涙にくれるという情景も見られた。

11月24日

- ①「ディック・ミネ」 #3
- ②ディック・ミネ
- ③「ダイナ」「上海リル」「林檎の樹の下で」
- ④ 今夜はディック・ミネ特集その1。
流行歌全盛の時代に、新しいリズムのジャズを持ち込み、一世を風靡した「ダイナ」でデビュー、当時の若者たちの心をつかんだディック・ミネに、デビュー当時の思い出話を語ってもらい、彼のヒット曲を綴る。
その他ディック・ミネの名前の由来やミネのファン層の幅広さなどについても聞く。

12月1日

- ①「ディック・ミネ」 #4
- ②ディック・ミネ
- ③「人生の並木路」「夜霧のブルース」「旅姿三人男」「或る雨の午後」
- ④ 今週は、先週に引き続きディック・ミネ特集その2。今夜は主としてディック・ミネが終戦直後の思い出話を語り、映画出演した時のエピソードなど珍談奇談を紹介する。

12月8日

- ①「渡辺はま子」 #5
- ②渡辺はま子
- ③「いとしあゝの星」「支那の夜」
- ④

12月15日

- ①「渡辺はま子」 #6
- ②渡辺はま子
- ③「雨のオランダ坂」
- ④ 先週に引き続き渡辺はま子特集その2。

中国大陸の各地を戦線慰問で旅行したり「支那の夜」「蘇州夜曲」など中国を歌った曲が多いため、中国人ではないか？と噂された彼女は、終戦後も「雨のオランダ坂」「あゝモンテンルパの夜は更けて」など、数多くのヒット曲を生み出した。今夜は終戦後の話や、今の歌手と当時の歌手の違いなどについて話す。

12月22日

- ①「灰田勝彦」 #7
- ②灰田勝彦
- ③「森の小径」「鈴懸の径」「燦めく星座」
- ④ 今夜は往年のスター歌手、灰田勝彦特集その1。

明治44年ハワイで生まれた灰田は、戦前、戦中、そして戦後と数々のヒット曲を生み出したが、中でも「森の小径」や「鈴懸の径」は戦争という暗い世相の中で、人々の心に明るい灯を与え、特に「森の小径」は若い女性の心をつかんだ。こうした頃の思い出話や兵隊として満州へ行った時の思い出、それに最大のヒット曲と言われる「燦めく星座」のレコーディングの思い出などを聞く。

また、「歌手になっていなかったらプロ野球の選手になっていた」と語る”野球の虫”灰田が、「われもし巨人軍の監督であれば」などの話を語る。

12月29日

- ①「灰田勝彦」 #8
- ②灰田勝彦
- ③「新雪」「野球小僧」「アルプスの牧場」「アロハ東京」
- ④ 先週に引き続き、灰田勝彦特集その2を送る。

子どもから老人まで広い層にわたって人気のあった灰田勝彦の思い出話は、戦前及び終戦直後のファン気質。当時は、今のグループ・サウンズ・ファンのような熱狂的ファンは少なかったが、マイクやステージを離れてもファンとのつながりが強く、友達付き合いをしたり、親身に相談し合えるようなファンが多かったという。

昭和44年1月5日

- ①「東海林太郎」 #9
- ②東海林太郎
- ③「赤城の子守唄」「国境の町」「野崎小唄」「むらさき小唄」
- ④ 今週は歌謡界の大御所、東海林太郎をスタジオに迎え、「赤城の子守唄」や「国境の町」「野崎小唄」が流行した当時の世相を中心に、東海林自身の思い出、戦前と戦後の流行歌手の違いなどについて語ってもらう。

1月12日

- ①東海林太郎 #10
- ②東海林太郎
- ③「すみだ川」「麦と兵隊」「名月赤城山」
- ④ 東海林太郎特集の2回目。

スタジオに東海林太郎を迎え、「麦と兵隊」ほかのレコードを聞きながら、当時の思い出話を語ってもらう。

「すみだ川」で当時の大スター田中絹代とかけあいのセリフを入れた話、「麦と兵隊」の原作者・火野葦平の思い出、「名月赤城山」の舞台となった赤城山を訪れた時のエピソードなど、とっておきの思い出話を紹介する。

1月19日

- ①「霧島昇」 #11
- ②霧島昇
- ③「旅の夜風」「目ン無い千鳥」
- ④ 今週は、霧島昇特集の第1回。

「誰か故郷を想わざる」の大ヒットで一世を風靡した霧島のヒット曲には「旅の夜風」「新妻鏡」「人妻椿」「三百六十五夜」など映画の主題歌が多い。上原謙、田中絹代のコンビで全国の女性の紅涙をしぼった「愛染かつら」をはじめ、昭和初期の代表的メロドラマのバックには、霧島昇とその夫人のミス・コロムビア(松原操)の歌声が流れ、映画主題歌の魅力を盛り上げていた。

今夜は霧島昇を迎えて、ヒット曲を聞きながら「愛染かつら」主題歌吹込み当時の思い出などを語ってもらう。

1月26日

- ①「霧島昇」 #12
- ②霧島昇
- ③「露営の歌」(霧島)、「赤城しぐれ」「燃ゆる大空」「純情二重奏」
- ④ 霧島昇特集その2。

最近はやっとした”軍歌ブーム”。逆コースとかミリタリズムの復活だなどと一方で言われながらも、年配層にとっては青春時代へのノスタルジアを感じさせる”なつメロ”に変わりはない。

そこで今夜は、霧島昇の歌う「露営の歌」などのレコードを聞きながら、彼が体験した戦争中の思い出話などを語り、戦中、戦後に至る世相の移り変わりを振り返る。

2月2日

- ①「淡谷のり子」 #13
- ②淡谷のり子
- ③「ルンバ・タンバ」「聞かせてよ愛の言葉を」「待ちましよう」「小雨降る径」
- ④ 淡谷のり子特集その1。

”ブルースの女王”として、後年歌謡界の女王となった淡谷のり子の歌手生活は、文字通り”赤貧洗うがごとき”苦難の毎日でスタートした。アルバイトとして裸のモデルをしたのも、その頃のこと。今夜は、流行歌手としてデビューした当時の生活体験談、シャンソンの魅力、最近の女性の生き方などについて聞く。

2月9日

- ①「淡谷のり子」 #14
- ②淡谷のり子
- ③「別れのブルース」「君忘れじのブルース」
- ④ 今夜は”ブルースの女王”淡谷のり子特集の第2夜。戦争の黒い影が急速に忍び寄った昭和12年、淡谷のり子の歌う「別れのブルース」が世に出、この後の「雨のブルース」とともに大ヒットして”ブルースの女王”が誕生した。

スタジオでの淡谷のり子の話は、吹込みの思い出話とともに”ウタ屋論争”に及び、最近の若い歌手はスターになること、ウケることばかり考えているところに問題があると忠告する。

2月16日

- ①「二葉あき子」 #15
- ②二葉あき子
- ③「新妻鏡」「巴里の屋根の下」「白蘭の歌」「春よいづこ」「別れても」
- ④ 二葉あき子特集その1。

淡谷のり子、渡辺はま子らとともに、戦前から戦後にかけて歌謡曲を歌い続けてきた二葉あき子の人生体験は、そのまま歌の心に歌い込まれ、豊かな表現を伴った歌唱力は、歌謡界のトップスターとしての地位を譲らなかつた。

今夜はスタジオに彼女を迎え、戦前から戦後にかけての歌謡生活を振り返ってもらいながら「新妻鏡」「白蘭の歌」などのヒット曲をレコードで聞く。

2月23日

- ①「二葉あき子」 #16
- ②二葉あき子
- ③「水色のワルツ」「夜のプラットホーム」
- ④ 今夜は二葉あき子特集その2。

終戦後の荒廃した世相の中で、人々にうるおいと励ましを与えてくれたのが流行歌。二葉あき子の歌う「水色のワルツ」や「恋の曼珠沙華」なども、ラジオを通じて全国に大ヒットした。

二葉あき子の思い出話は、モンペ姿でステージに立った終戦直後の頃に始まり、今なおシャンソンなどに意欲を燃やし、フランス語を勉強中という近況まで興味深い話が尽きない。

3月2日

- ①「田端義夫」 #17
- ②田端義夫
- ③「島の船唄」「別れ船」「大和根月夜」「梅と兵隊」「かえり船」
- ④ 田端義夫特集の第1回。

今夜は、6歳まで伊勢の松坂で過ごした後大阪に出て丁稚奉公するなど苦闘時代の頃のエピソードに始まる。

夜逃げすること6回、小学校3年半しかない学歴、そうした貧苦の生活が、後の彼の情感ある歌い方にあらわれている。

3月9日

- ①「田端義夫」 #18
- ②田端義夫
- ③「かよい船」「島育ち」
- ④ 田端義夫特集その2。

「オス！」のあいさつで親しまれた”バタやん”こと田端義夫の青春時代はまさに苦闘の連続。丁稚奉公にはじまり、橋下学校に通ったり、夜逃げを6回もしたり……これらの苦労が後の彼の情感豊かな唱法に活かされた。

今夜はこうした貧苦の時代の思い出や最前線での慰問の話などを進めながら、ヒット曲を聞く。

3月16日

①「榎本健一」 #19

②榎本健一

③「道化の唄」「恋はやさし」「洒落男」「モンパパ」「雨に唄えば」「法界坊」「ベアトリねえちゃん」「マイ・ブルー・ヘブン」

④ 今夜は榎本健一特集その1。

榎本健一をゲストに、思い出のヒット曲と、それにまつわるエピソードを紹介する。

芸能生活45年、まず小学校時代の思い出として、人を笑わせる才能がこの頃からあったという話。それに浅草オペラ華やかかなりし頃、サトウ・ハチローとエノケンだけは、浅草付近の乞食も避けて通ったという話などから、当時の浅草と現代の浅草を比較する。

3月23日

①「榎本健一」 #20

②榎本健一

③「洒落男」「モンパパ」「雨に唄えば」

④ 今夜は榎本健一特集その2。

芸能生活45年……浅草でデビューして以来”日本の喜劇王”として万人に親しまれてきたエノケンの舞台、ステージには、芸の年輪が深く刻まれた味がある。

今夜はスタジオにエノケンを迎え、45年の芸能生活を振り返りヒット曲を聞きながら、芸能界の過去、現在、将来を語ってもらう。

3月30日

①「小畑実」 #21

②小畑実

③「勘太郎月夜唄」「湯島の白梅」「高原の駅よさようなら」

④ 小畑実特集の第1夜。

戦後の荒廃した世相の中で、小畑実の歌う明るい歌声は人々にやすらぎと明るさを取り戻してくれた。

このベテラン歌手・小畑実が最近「勘太郎いつ帰る」でカムバックしたが、今夜はスタジオに小畑実を迎え、カムバック論、音楽論について大いに語ってもらう。

4月6日

①「小畑実」 #22

②小畑実

③「小判鯨の歌」「星影の小径」「長崎のザボン売り」「勘太郎いつ帰る」

④ 小畑実特集の第2回。

アメリカでの生活を通じて「日本にはおとなの歌が少なすぎる」と実感した小畑実は、このほど「勘太郎いつ帰る」の新曲をレコードに吹込んでカムバック。

「これをきっかけに、もう一人小畑実がスタートする。これからも”おとなの歌”をどんどん歌って行きたい」と抱負を語る。

新曲の「勘太郎いつ帰る」は、長谷川一夫の振付で踊りの曲にもなっているが、小畑と長谷川の交友関係は、小畑実初期のヒット曲「小判鯨の歌」からはじまる。思い出話となつかしい歌を聞く。

4月13日

- ①「小唄勝太郎」 # 23
- ②小唄勝太郎
- ③「島の娘」「東京音頭」
- ④ 今夜は小唄勝太郎特集その1。

現在、歌謡界ではミリオン・セラーと呼ばれる百万枚が大ヒットの目安とされているが、日本の歌謡史上空前絶後と言われる記録は、昭和8年に小唄勝太郎と三島一声が吹き込んだ「東京音頭」。

そのレコード売り上げ枚数は280万枚ということであった。

今夜はスタジオに勝太郎を迎え、三島一声と電話対談を交えながら思い出話を聞く。

4月20日

- ①「小唄勝太郎」 # 24
- ②小唄勝太郎
- ③「柳の雨」「大島おけさ」「祇園ばやし」
- ④ 小唄勝太郎特集その2。

大島三原山での投身自殺が相次いだ頃、この暗いムードをなくすために吹き込んだ「大島おけさ」が自殺防止のキャンペーンになったこと、戦場へ夫を送る妻の気持ちを歌い込んだ「明日はお立ちか」が戦地で兵士の涙を誘ったことなど、ヒット曲「東京音頭」以降のエピソードを勝太郎が語る。

4月27日

- ①「藤山一郎」 # 25
- ②藤山一郎
- ③「酒は涙か溜息か」
- ④ 今夜は、長年歌謡界の王座に君臨してきた藤山一郎特集の第1回。

日本の歌謡曲史を振り返ってまず浮かぶのが、古賀政男、藤山一郎のコンビによる数々のヒット曲だ。そして30年近くに及ぶ藤山一郎の長い歌手生活は特筆されるものがある。明るい藤山の歌声は戦争をはさんで、日本国中の人にやすらぎや励ましを与えてきた。

今夜は往年のヒット曲を聞きながら、デビュー当時の思い出などを聞く。

5月4日

- ①「藤山一郎」 # 26
- ②藤山一郎
- ③「青い山脈」「三日月娘」「夢淡き東京」
- ④ 今夜は、藤山一郎特集第2回。

戦前、数々の大ヒットを飛ばした藤山は、一時戦死したと伝えられていたが、終戦後まもなく復員し、昭和22年に「三日月娘」でカムバックした。

焼け野原の東京に再興の夢を託して歌ったのが「夢淡き東京」、そして終戦後の虚脱した国民に明るさを取り戻してくれた映画主題歌「青い山脈」など大ヒットが続く。この頃の一番思い出深い歌が「長崎の鐘」。この歌をステージで歌うたびに、自ら原爆症にもかかわらず、数百人の患者を救った永井博士のことが偲ばれ、いまだに涙が浮かんでくるという。

5月11日

- ①「伊藤久男」 # 27
- ②伊藤久男
- ③「高原の旅愁」「白蘭の歌」「お島千太郎旅唄」「暁に祈る」
- ④ 伊藤久男特集その1。

今はなくなったが、伊藤久男がデビューした時のリーガル盤の話から「高原の旅愁」の思い出話を聞く。また、戦時中兵隊はもちろん一般の人にも歌われ、替え歌も作られたほどヒットした「暁に祈る」の思い出として、硫黄島での生活の話聞く。

5月18日

- ①「伊藤久男」 #28
- ②伊藤久男
- ③「君の名は」「イヨマンテの夜」「山のけむり」
- ④ 伊藤久男特集の第2回。

伊藤久男といえば、すぐ「イヨマンテの夜」と言われるほど、男性的な力強い歌唱で大ヒットを飛ばしたが、本人は「イヨマンテの夜」よりも「君の名は」「山のけむり」のようなムードのある曲の方が好きだという。彼のヒット曲とともに「君の名は」にまつわる思い出を聞く。

5月25日

- ①「岡本敦郎」 #29
- ②岡本敦郎
- ③「朝はどこから」「白い花の咲く頃」「あこがれの郵便馬車」
- ④ 今夜は岡本敦郎特集その1。

荒廃した終戦直後の世相にさわやかな明るさを与えてくれた岡本敦郎。彼が歌手の道へ入ったのは全くの偶然から。中学時代からアナウンサーを志望していた彼は、NHKのアナウンサー試験を受けたが不合格、気晴らしに映画でもと、試験に落ちたその足で日劇へ出かけたが、ステージに立っていた伊藤久男の歌を聞いて大変に感激、歌手になることを志したという。

6月1日

- ①「岡本敦郎」 #30
- ②岡本敦郎
- ③「草笛の歌」「チャペルの鐘」「ピレネエの山の男」
- ④ 今夜は岡本敦郎特集その2。

「朝はどこから」「白い花の咲く頃」など、一連のラジオ歌謡で荒廃した戦後の世相に明るさを取り戻してくれた岡本敦郎は、無類の乗り物好き。

こうした趣味と歌とが一致して彼の歌う曲には「あこがれの郵便馬車」「自転車旅行」「高原列車は行く」など乗り物をテーマにしたものが多く、最近では宇宙ロケットの歌も歌っている。

今夜はスタジオに岡本敦郎を迎え、乗り物との結びつきを始め、色々なエピソードを紹介する。

6月8日

- ①「高峰三枝子」 #31
- ②高峰三枝子
- ③「宵待草」「純情二重奏」「湖畔の宿」「小雨の丘」「南の花嫁さん」
- ④ ”歌う映画スター”男性の第一号が高田浩吉なら、女性の第一号は高峰三枝子である。最初のレコード吹込み「宵待草」が昭和13年というから、デビュー以来30年になる。

今夜はスタジオに高峰三枝子を迎え、思い出のヒット曲をレコードで聞きながら、隠されたエピソードの数々を聞く、その第1回。

昭和15年に吹込んだ「湖畔の宿」が”脆弱”という理由で軍部からにらまれ、発売禁止になったものの、ビルマのバーモ長官がこの歌を大変気に入り、このため東条首相から呼び出しを受けて、モンペ姿で歌った話などエピソードは多い。

6月15日

- ①「高峰三枝子」 # 32
- ②高峰三枝子
- ③「懐しのブルース」
- ④ 高峰三枝子特集のその2。

戦前「暖流」をはじめ数多くのメロドラマのヒロインを演じ”銀幕の女王”としての地位を占めた高峰三枝子は、”歌う映画スター”としても大活躍、終戦後も「懐しのブルース」「情熱のルンバ」などのヒット曲を生み出した。

しかしその後、声が出なくなったため、歌謡界を引退した形だったが、今では奇跡的にカムバック、今年9月には初のリサイタルも予定されている。

6月22日

- ①「岡晴夫」 # 33
- ②岡晴夫
- ③「東京の花売り娘」「上海の花売り娘」「男一匹の唄」「港シャンソン」
- ④ 粋なリーゼント・スタイルで颯爽と現れ、混乱した終戦後の世相に明るさを与えた岡晴夫特集その1。

東京上野のデパートの店員だった岡晴夫が歌手の道に入ったのは全くの偶然から。たまたま下宿先の近所に、当時流しをしていた作曲家・上原げんとが引っ越してきたのが第一の縁。そして上原げんとコンビを組んでいた人が病気で倒れたという第二の縁が重なって、歌謡界に入った。岡はその後、上原とコンビを組んだ形で、進駐軍の払い下げのイキなジャンパー、リーゼント・スタイルで歌いまくり、各地のステージで絶大な人気を博した。

今夜はスタジオに岡晴夫を迎えて、ヒット曲とともに思い出話を聞く。

6月29日

- ①「岡晴夫」 # 34
- ②岡晴夫
- ③「啼くな小鳩よ」「逢いたかったぜ」「あこがれのハワイ航路」
- ④ 岡晴夫特集の2回目。

岡と言えばマドロススタイルを思い出すが、これはデビュー後、自分の歌に行き詰まりを感じた岡が、観客にとけこむのにどうしたらよいかを考え、舞台上でその歌に合った衣装を着ることを考えつき実行したのが始まり。今でこそ趣向を凝らした衣装で客席や花道から歌手が出るのは当たり前だが、当時としては新しい試みとして評判になった。その頃のヒット曲を聞く。

7月6日

- ①「東海林太郎」 # 35
- ②東海林太郎
- ③「赤城の子守唄」「国境の町」「名月赤城山」
- ④ 今夜は、なつメロ・ファンの圧倒的なリクエストにこたえて、東海林太郎が再登場する。

今年の2月にこの番組に出演した東海林太郎の話を聞いて、「人生経験豊かな話に感激した」といった手紙が殺到、今後も歌い続けてほしいという激励文も寄せられている。

なお、中部日本放送ではこの日、中日対阪神戦のナイター中継が組まれていたが、雨天中止となったため雨傘番組として放送された。

7月13日

- ①「阿部武雄」 #36
- ②阿部未亡人、橋本一郎、岡大作
- ③「国境の町」「むらさき小唄」「流転」「裏町人生」
- ④ 昭和のはじめ、数多くのヒット曲を作曲した故・阿部武雄の特集。

人生の哀歌を歌った「国境の町」などを作曲した阿部武雄は、“流し”出身の歌謡作曲家のひとり。昭和のはじめ、毎日ギターを持って銀座一帯を流して歩き、自分が作曲した歌をリクエストする客に出会うと、喜んでお金を受け取らなかったという。

今夜はスタジオに未亡人の八重子、そして昔一緒に“流し”をしていた岡大作(現・作曲家)をゲストに迎え、故人を偲び、思い出話を語る。

7月20日

- ①「阿部武雄」 #37
- ②藤田まさと
- ③「妻恋道中」「裏町の灯」「鴛鴦道中」
- ④ 昭和のはじめ数多くのヒット曲を作曲した故・阿部武雄特集のその2。
「妻恋道中」「鴛鴦道中」など”道中もの”をはじめ多くのヒット曲を作曲した阿部武雄は数々の奇行の持ち主。
今夜はスタジオに故人と親しかった作詞家の藤田まさとを迎え、ヒット曲を聞きながら阿部武雄を偲ぶ。

7月27日

- ①「中山晋平」 #38
- ②森一也
- ③「煙草のめめ」「紅屋の娘」「てるてる坊主」「東京行進曲」「銀座の柳」「東京音頭」
- ④ “お盆特集”のきょうは、作曲家の中山晋平を偲び、なつかしのヒット・メロディーを、昔のSPレコードで聞く。
数々のヒット曲を作った中山晋平であるが、それだけに作曲中の態度は厳しかったという。作曲中には部屋に入ることも許さず大変な苦しみ方で、一曲一曲を作っていた。その半面、外の人に対しては温厚な人としての印象が強かったそうである。
ゲストに、珍品レコードの保存日本一と言われる音楽評論家・作曲家の森一也を招き、昔そのままのSPレコードをかけながら、思い出のエピソードで往時を偲ぶ趣向。「煙草のめめ」「紅屋の娘」「銀座の柳」ほか、いずれも珍しいレコードを聞く。

8月3日

- ①「中山晋平」 #39
- ②森一也
- ③「鹿児島小原節」(中山晋平)、「京都市行進曲」「祇園囃子」「琵琶湖シャンソン」「波浮の港」「鉾をおさめて」
- ④ 故・中山晋平特集その2。ゲストの作曲家・森一也の所有する珍品レコードを聞きながら、その曲にまつわるエピソードでつづっていく。
まず一曲目は、中山晋平歌うところの「鹿児島小原節」。三味線は故・豊吉という全く珍しいレコードを聞く。また、“比叡のケーブル灯ともし頃は、胸の想いの灯ともし”と歌われた「京都市行進曲」や「祇園囃子」「琵琶湖シャンソン」など、京都にまつわる曲も聞く。

8月10日

- ①「菅原都々子」 #40
- ②菅原都々子
- ③「憧れは馬車に乗って」「パパは泣虫」「悲恋椿」「連絡船の唄」「月がとっても青いから」
- ④ 菅原都々子特集その1。

菅原節と言われて戦後の復興期に、独特のバイブレーション唱法で歌謡界にセンセーションを起こした菅原都々子は昭和2年青森の生まれ。少女時代には一時、古賀政男の養女になったこともあるという。また彼女の父は作曲家の陸奥明で、「パパは泣虫」や「月がとっても青いから」など彼女のための曲も作っている。

今夜はスタジオに菅原都々子を迎え、「憧れは馬車に乗って」「連絡船の唄」などのヒット曲を聞きながら思い出話を聞く。

8月17日

- ①徳山璉 #41
- ②徳山未亡人、四家文子
- ③「侍ニッポン」「ルンペン節」「天国に結ぶ恋」「百万人の合唱」「隣組」
- ④ 今は亡き徳山璉の特集。

今生きていたら66歳という徳山璉は、美声の持ち主であると同時に洒落の名人だったとも言われ、今日のマスコミ時代にはふさわしい人間と言える。彼はまたカツレツが大好きで徳山豚児というあだ名がつけられたほど。

ゲストに未亡人の徳山ひさ子と、東京音楽学校で同級生かつビクターでも同僚であった声楽家の四家文子を迎え、徳山の人となりを偲ぶ。また、徳山のSPレコードを聞き、その経緯についても聞く。

8月24日

- ①物故歌手特集 #42
- ②
- ③「君恋し」(二村定一)、「サーカスの唄」(松平晃)、「人生劇場」「緑の地平線」(楠木繁夫)、「上海帰りのリル」(津村謙)、「東京シューシャイン・ボーイ」(暁テル子)
- ④ 今夜は物故歌手特集で、亡き往年のスター歌手のレコードを聞き、在りし日の声を偲ぶ。

まず、舞台での態度は一級品と折り紙がつけられていた二村定一の「君恋し」、今から41年前の曲としては大変モダンな感覚で歌われている。続いては松平晃の「サーカスの唄」。芸大出の彼は、しっかりした歌い方で数々のヒットを飛ばした。同じく学校から追放された楠木繁夫の「人生劇場」と「緑の地平線」、そのほか津村謙、終戦当時としては型破りの歌い方で人気を呼んだ暁テル子の歌を聞く。

8月31日

- ①菅原都々子 #43
- ②菅原都々子
- ③「江の島エレジー」「広東エレジー」「佐渡ヶ島エレジー」「北上夜曲」
- ④ 菅原都々子特集その2。

多くのエレジーを歌ってエレジー歌手と言われた菅原都々子をスタジオに迎え、当時のエレジー談義を送る。

静岡公演の際、夫に死なれて自殺をしようと思いついた子供連れ母親が、彼女の歌う「広東エレジー」を聞いて励まされ、自殺を思いとどまってお礼に来た話など、エピソードが紹介される。

9月7日

①東海林太郎 #44

②東海林太郎

③「お駒恋姿」「すみだ川」「月形半平太の唄」

④ 第35回に続いて、聴取者のアンコールに応じて東海林太郎が再出演し、思い出の歌を歌うとともに、当時のエピソードを紹介する。なお、近畿放送では第35回を9月23日、この第44回を9月30日に放送しているため、2週続けての東海林特集となっている（「地域別放送日時リスト」参照）。

東海林は独特のポーズ——直立の姿勢でマイクに向かうが、その態度は現在の歌手には見られない誠実さを感じさせている。また、東海林は鉄棒の天才児と言われ、世が世ならオリンピックの体操の選手になっていたかもしれないという話など、隠れたエピソードを紹介する。

9月14日

①近江俊郎 #45

②近江俊郎

③「湯の町エレジー」「山小舎の灯」「南の薔薇」

④ 今夜は近江俊郎特集のその1。

昭和23年、近江が歌った「湯の町エレジー」は、全国的に大ヒットし、当時レコード・プレーヤーが120万台しかなかった終戦直後でありながら、実に400万枚のレコードが売れた。

今夜はスタジオに近江俊郎を迎え、なつかしのヒット曲を聞きながら、当時の思い出話に花を咲かせる。

9月21日

①近江俊郎 #46

②近江俊郎

③「湯の町エレジー」「湯の町物語」「湯の町月夜」「湯の町夜曲」

④ 近江俊郎特集のその2。

昭和23年に吹き込んだ「湯の町エレジー」の爆発的ヒットは、温泉気分どころではなかった当時の人々に「湯の煙」に対する明るい郷愁を呼び戻した。

今夜はスタジオに近江俊郎を迎え、なつかしいヒット曲を聞きながら当時の思い出話を聞く。

9月28日

①松平晃 #47

②福田和禾子、渡辺敏治

③「急げ幌馬車」「サーカスの唄」「夕日は落ちて」

④ 今夜は、聴取者の圧倒的リクエストにこたえて、生来の美声と美貌で一世を支配した松平晃を特集し、なつかしのメロディーを聞きながら故人を偲ぶ。

ゲストには松平晃の遺児・福田和禾子と、当時松平晃と同じ楽団でアコーディオンを弾いていた渡辺敏治。そして聴取者代表として熱烈なファンだった大阪の井上二三夫が電話で参加する。

10月5日

①松平晃 #48

②福田和禾子、渡辺敏治

③「花言葉の唄」「初恋日記」

④ 先週に引き続き、生来の美声と美貌で一世を風靡した松平晃のアンコール特集その2。

スタジオに遺児の福田和禾子、松平晃の音楽友達の渡辺敏治を迎え、故人の思い出話に花を咲かせながらなつかしのメロディーを聞く。

和禾子は「父のような歌い方の歌手はその後、現れていない。父のような歌い方の歌手のため作曲したい。」と語る。

10月12日

- ①楠木繁夫 #49
- ②吉田信

③「人生劇場」「緑の地平線」「白い樫の唄」

- ④ 聴取者のリクエストに応じて、今は亡き楠木繁夫の特集を送る。

昭和2年”学園の民主化”をめぐって上野の音楽学校から3人の学生が退校させられた。

その3人とは楠木繁夫、高木東六、そして現在著作権協会常務理事の吉田信。これを1つの大きな体験として、3人それぞれの人生劇場を振り返る。

10月19日

- ①一周年記念リクエスト #50

②木村孝雄

③「旅の夜風」(霧島昇・松原操)、「妻恋道中」(上原敏)、「支那の夜」(渡辺はま子)、「旅笠道中」(東海林太郎)

- ④ 50回記念特集として、今までに聴取者から寄せられた便りを紹介しながら、なつメロファンのリクエストに応える。特に今回はすべて原盤のレコードを使用している。

10月26日

- ①一周年記念リクエスト #51

②木村孝雄

③「人妻椿」(松平晃)、「湖畔の宿」(高峰三枝子)、「かえり船」「啼くな小鳩よ」

- ④ 今夜はリクエスト特集の第2回。

歌は世につれ、世は歌につれ…。一曲の流行歌には人さまさまの感慨や思い出があるものだが、今夜はなつかしのヒット・メロディーとその曲にまつわる聴取者の便りを織り込んで、30分を送る。レコードは、特にファンの要望に応じて、原盤のSPレコードで昔を偲ぶ。

11月2日

- ①藤田まさと #52

②藤田まさと

③「旅笠道中」(東海林太郎)、「お駒恋姿」(東海林太郎)、「明治一代女の唄」(喜代三)、不明(上原敏)

- ④ 昭和4年、当時大流行した「女給の唄」の向こうをはって、「ウエートレスの唄」をデビュー曲として3人の若者が世に出た。

1人は作詞家の藤田まさと、もう1人は作曲家の福田蘭童、そして四家文子。

今夜はこの3人の中からこの道40年の藤田まさとにスポットを当て、彼の作詞した4千曲の中からリクエストの多い曲を原盤のSPレコードで聞く。

11月9日

- ①藤田まさと #53

②藤田まさと

③「流転」(上原敏)、「麦と兵隊」(東海林太郎)、「鴛鴦道中」

- ④ 先週に引き続き、情熱の詩人・藤田まさとをスタジオに迎えて、彼の傑作”やくざものシリーズ”を原盤で聞く。

藤田は昭和12年、故・上原敏(歌)、故・阿部武雄(作曲)との名コンビでやくざの世界を歌い上げた「流転」を世に送ったが、当時のニヒルな世相を反映し大ヒットとなった。

11月16日

- ①藤田まさと #54
- ②藤田まさと

③「妻恋道中」「親恋道中」「築地明石町」「大根月夜」「岸壁の母」

④ 昭和4年、作詞家として世に出た藤田まさとをゲストに迎えて、この道40年を振り返り、原盤でなつかしのメロディーを偲びながら当時の社会、風俗などについて話を聞く。

藤田まさとの作詞を歌っている歌手の中から上原敏、東海林太郎、田端義夫、菊池章子ら往年の歌手の歌を送る。

11月23日

- ①音丸 #55
- ②音丸

③「船頭可愛いや」「下田夜曲」「博多夜船」「満州想えば」

④ 今夜は、東京麻布の下駄屋のおかみさんから、その美声を認められ「船頭可愛いや」で一躍スターになった音丸の特集。

昭和10年「船頭可愛いや」の大ヒットで”音丸時代”を築いた音丸をゲストとしてスタジオに迎え、原盤のSPレコードで当時のヒット曲を聞きながら、思い出話に花を咲かせる。

11月30日

- ①島田馨也 #56
- ②島田馨也

③「泣き笑いの人生」「女の階級」(楠木繁夫)、「裏町人生」(上原敏・結城道子)、不明(小畑実)、不明(灰田勝彦)

④ 熊本出身の人生詩人・島田馨也が世に出てから今日まで40年の歴史を”なつメロ”とともに振り返る。

昭和8年、主婦之友社が募集した「地上の星座」主題歌(作詩)に当選した時、賞金300円の領収書を書く島田があまりにみすばらしい格好をしていたため信用されず、筆跡鑑定を受けたという話。その後賞金で貧乏仲間にならな井や天井を腹いっぱいにするが、普段粗食の仲間たちは全員腹痛を起こしてしまった話など、古き良き時代を島田馨也が涙ながらに語る。

曲は原盤のSPレコードを使い、楠木繁夫の歌う「女の階級」、上原敏・結城道子の「裏町人生」など思い出の歌を聞く。

12月7日

- ①島田馨也 #57
- ②島田馨也

③「湖底の故郷」(東海林太郎)、「上海ブルース」(ディック・ミネ)、波止場気質(上原敏)

④ 今夜は”熱血の人生詩人”島田馨也がなつメロと共に思い出を語る。

昭和12年6月に作られた「湖底の故郷」は、東京の新たな水源として湖底に沈んでいった小河内村をうたったもので、社会歌謡のはしりとさえ言われた。今夜は、島田馨也が600世帯、3千人の身の上に人生の哀別離苦の相を見たとして自作の和歌を朗詠。

12月14日

- ①島田馨也 #58
- ②島田馨也

③「夜霧のブルース」(ディック・ミネ)、「長崎エレジー」「紫におう地平線」(楠木繁夫)、「セトナ愛しや」(菅原都々子)

④ 今夜は、先週、先々週に続いて島田馨也特集の第3夜。熊本出身の人生詩人、島田馨也が自作のなつメロと共に作詞家として歩んできた道を振り返り、交友録を紐解く。

レコードは、特に原盤のSPレコードを使用する。

12月21日

- ①佐伯孝夫 #59
- ②佐伯孝夫
- ③「僕の青春」「燦めく星座」「無情の夢」
- ④ 佐伯孝夫特集その1。

人情の機微を筆に託して40年。今夜は、昭和44年度レコード大賞特別賞を獲得した、永遠の青年詩人、佐伯孝夫をゲストに迎え、40年の作詞生活を振り返る。

佐伯は、新聞記者時代にアルバイトで始めた作詞が本業となり、藤山一郎の「僕の青春」から青江三奈の「新宿サタデー・ナイト」に至るまで数多くの名作を作り上げている。思い出話を織り込みながら、ヒット曲を聞く。

12月28日

- ①佐伯孝夫 #60
- ②佐伯孝夫
- ③「明日はお立ちか」(小唄勝太郎)、「新雪」(灰田勝彦)、「湯島の白梅」(小畑実・藤原亮子)、「銀座カンカン娘」(高峰秀子)、「有楽町で逢いましょう」(フランク永井)
- ④ 今夜は先週に引き続き、今年のレコード大賞特別賞に輝く佐伯孝夫を迎え、作詞生活40年の思い出を聞く。

曲目は、小唄勝太郎の「明日はお立ちか」からフランク永井の「有楽町で逢いましょう」まで戦前戦後の代表的なヒット曲を送る。

昭和45年1月4日

- ①時雨音羽・服部良一・古関裕而 #61
 - ②時雨音羽、服部良一、古関裕而
 - ③「出船の港」(藤原義江)、「別れのブルース」(淡谷のり子)、「船頭可愛いや」(音丸)
 - ④ 新春特集第1回の今夜は、昨秋、紫綬褒章を受章した詩人の時雨音羽、作曲家の服部良一、古関裕而の三氏をゲストに迎えて、昭和初期の代表的な流行歌を集める。
- 原盤のSPレコードで”なつメロ”を聞きながら、デビュー当時の苦心談や最初のヒット曲の喜びなどを語る。

1月11日

- ①榎本健一 追悼 #62
 - ②
 - ③「モンパパ」「洒落男」「法界坊」
 - ④ 去る7日にこの世を去った”日本の喜劇王”榎本健一を偲び、エノケン最後のラジオ出演となった、この番組昨年3月の”榎本健一特集”を再放送する。
- 芸能生活45年を振り返り、その泣き笑い人生を語るとともに、得意の歌を披露している。
- なお、放送当日の読売新聞東京版朝刊には「湖畔の宿」と書いてあり、もともとは第63回放送分をこの日に放送する予定であったと思われる。

1月18日

- ①時雨音羽・服部良一・古関裕而 #63
- ②時雨音羽、服部良一、古関裕而
- ③「湖畔の宿」(高峰三枝子)、「暁に祈る」(伊藤久男)、「鉾をおさめて」(藤原義江)
- ④ 今夜は、新春特集の第2回として、紫綬褒章受章の時雨音羽、服部良一、古関裕而の三氏をゲストに迎え、昭和15年頃ヒットした曲にまつわるエピソードなどを回顧し、原盤レコードで当時を偲ぶ。

1月25日

- ①時雨音羽・服部良一・古関裕而 #64
- ②時雨音羽、服部良一、古関裕而
- ③「夢淡き東京」「君恋し」「蘇州夜曲」
- ④ 今夜は、日本の歌謡界に数多くのヒット曲を生み出してきた、時雨音羽、服部良一、古関裕而の三氏をスタジオに迎え、ヒットする曲、ヒットしない曲、いわゆる三分芸術の宿命と哀感を聞く。
特に今夜は、三氏が今後の抱負や夢を、1970年代のビジョンとして発表する。

2月1日

- ①菊池章子 #65
- ②菊池章子
- ③「九段の妻」「岸壁の母」「星の流れに」「九段の母」「春の舞妓」「真白き富士の嶺」
- ④ 今夜は菊池章子特集を送る。
戦後の荒廃した時期に世相を反映した曲で数々のヒットを出したが、中でも「九段の妻」「岸壁の母」それに「星の流れに」は、人々の涙を誘うとともに深い感銘を与えた。
今夜はその他に彼女が多く歌った映画主題歌も含めて、当時の様子を振り返ってみる。

2月8日

- ①菊池章子 #66
- ②菊池章子
- ③「春の舞妓」
- ④ 菊池章子特集の第2回だが、ラジオ関東でしか放送されていない模様。

2月15日

- ①田村しげる #67
- ②田村しげる
- ③「山は夕焼け」「母をたずねて」「大地の春」
- ④ 東海林太郎を世に送り出し、大成させたといわれる作曲家・田村しげるの特集で、同氏が思い出を語る。その第1回。
東海林太郎が今あるのは、田村しげるゆえと言われている。それは、関西のニッポレコードのテストを受けた東海林太郎が不合格となってしおしお帰っていくのを見た田村しげるが、自分が全責任を持つからとキングレコードのディレクターに頼んで東海林太郎をデビューさせたといういきさつがあるからである。その後、東海林は田村に師事し歌手への道を歩むことになったが、東海林の初期の作品はすべて田村の手になるものだ。
東海林のデビュー当時のエピソードを織り込み、原盤でヒット曲を聞く。

2月22日

- ①田村しげる #68
- ②田村しげる
- ③「白い花の咲く頃」「女の友情の唄」「夕月の歌」「アカシアの夢」
- ④ 前回に続き、作曲家・田村しげるがゲスト出演し、思い出話を語る。
明治41年、京に生まれた田村の愛妻は作詞家の故・寺尾智沙、そしてお嬢さんは女優の田村奈巳だが、昭和25年、岡本敦郎が歌ってヒットした「白い花の咲く頃」は、智沙と田村の合作だ。この3月には奥さんを偲んで自伝を発表するという。この道40年を振り返り、歌手としては東海林太郎、作詞家としては愛妻の智沙が最も気の合ったコンビだったと語る。
特に今夜は「なつメロ愛好会」の福田俊二秘蔵のオリジナルSPレコードで当時を偲ぶ。

3月1日

- ①青葉笙子 #69
- ②青葉笙子、福田俊二
- ③「関の追分」「夢の城ヶ島」「戦場撫子」「鴛鴦道中」
- ④ 戦前の人気歌手・青葉笙子の特集その1。

昭和11年、読売新聞主催ののど自慢に17歳の少女が応募し、当時流行していた「下田夜曲」を歌って見事優勝した。

この仙台出身の少女は、仙台の青葉城から名前をとって、歌手・青葉笙子が誕生した。

彼女は、昭和13年に上原敏とコンビで歌った「鴛鴦道中」で一躍スターダムにのし上がったが、今日はその頃の思い出を”なつメロ愛好会”会長の福田俊二も加わって語り合う。

3月8日

- ①青葉笙子 #70
- ②青葉笙子、福田俊二
- ③「七色の花」「兄妹」「島のあけくれ」「鴛鴦道中」
- ④ 青葉笙子特集その2。

昭和13年に上原敏と歌った「鴛鴦道中」で一躍スターになったが、その頃はいつも上原敏と一緒にいたために、夫婦と間違えられた話、また、戦争中に慰問に行った話などを、なつメロ愛好会の福田俊二を交えて話す。

曲目は「七色の花」「兄妹」「島のあけくれ」、そしてアンコール曲として「鴛鴦道中」を原盤のSPレコードで聞く。

3月15日

- ①上原げんと #71
- ②岡晴夫
- ③「国境の春」「上海の花売り娘」「港シャンソン」
- ④ 5年前急死した作曲家・上原げんと特集の第1夜。

昭和13年のある日、銀座のバーで飲んでいた東海林太郎の前に、二人組の流しが入ってきた。岡晴夫と上原げんとで、これが2人が世に出るきっかけとなった。

今夜はゲストに岡晴夫を迎え、上原の人間像や、2人が昭和14年2月に「国境の春」で華々しくデビューしてから、流しやチンドン屋の経験が血となり肉となって数々のヒット曲を生み出した話などの当時のエピソードを回顧する。

3月22日

- ①上原げんと #72
- ②岡晴夫
- ③「東京の花売り娘」「逢いたかったぜ」「ひばりのマドロスさん」
- ④ 昭和14年2月に「国境の春」でキングレコードからデビューした上原げんと岡晴夫の名コンビは、昭和26年の上原のコロンビア入りで袂を分かったが、昭和30年に岡晴夫は上原げんとを慕ってコロンビアに入り大ヒット曲の「逢いたかったぜ」を生んだ。

3月29日

- ①軍歌特集 #73
- ②八巻明彦
- ③「討匪行」(藤原義江)、「露営の歌」(伊藤久男)、「麦と兵隊」(東海林太郎)、「太平洋行進曲」(藤原義江・四家文子)、「同期の桜」
- ④ ”軍歌は兵隊のシャンソン”だと言われる。特に青春を戦争に捧げた戦中派の心の拠り所は軍歌と言えるかもしれない。今夜と来週の2回にわたって、戦時歌謡曲を中心に支那事変当時を偲んでみる。ゲストは軍歌の研究でも知られる八巻明彦。

4月5日

- ①軍歌特集 #74
- ②八巻明彦

③「加藤隼戦闘隊」(灰田勝彦)、「同期の桜」「空の神兵」「若鷺の歌」「轟沈」

- ④ 先週に続いて、軍歌特集のその2。

先週の支那事変当時の思い出の曲から、今週は太平洋戦争当時の戦時歌謡曲を中心に送る。

ゲストは軍歌の研究で知られる八巻明彦。当時の思い出話や裏話は大変興味深い。

4月12日

- ①林伊佐緒 #75
- ②林伊佐緒

③「ダンスパーティーの夜」「若しも月給が上がったら」「女性の戦い」「黄昏の南海」「点数の唄」

- ④ 林伊佐緒特集その1。

歌手として作曲家として、それに編曲家として活躍している林伊佐緒は、最初は作曲家になるつもりだったという。

今夜は「ダンスパーティーの夜」から始まり「若しも月給が上がったら」「女性の戦い」と続いて「黄昏の南海」「点数の唄」を聞く。この中で「黄昏の南海」は林伊佐緒自身の作曲で、自作自演という曲。なお全部SP原盤で送る。

4月19日

- ①林伊佐緒 #76
- ②林伊佐緒

③「ダンスパーティーの夜」「高原の宿」「ブギ真室川音頭」「おこさルンバ」「麗人草の唄」「若しも月給が上がったら」

- ④ 林伊佐緒特集その2。

作曲家としても色々な曲を作っている林伊佐緒は、歌手になる以前から作曲の勉強をしていたそうである。

今夜は彼自身の作曲になる「ダンスパーティーの夜」「高原の宿」の他、昭和29年に発売された「ブギ真室川音頭」「おこさルンバ」などのジャズ民謡を当時の思い出話と共に聞く。

この他映画主題歌の「麗人草の唄」「若しも月給が上がったら」など原盤のSPレコードで送る。

4月26日

- ①中野忠晴 #77
- ②中野未亡人、吉田信

③「走れ大地を」「山の人気者」「山寺の和尚さん」「おーい中村君」

- ④ 去る2月19日、世を去った歌手で作曲家の中野忠晴の特集。

中野は、昭和7年5月「夜霧の港」でデビューし、数々のヒット曲を生んできた。ゲストに未亡人の照子、日本音楽著作権協会常務理事の吉田信を迎え、その生涯を回想する。

5月3日

- ①中野忠晴 #78
- ②中野未亡人、吉田信

③「小さな喫茶店」「バンジョーで唄えば」「チャイナ・タンゴ」「おさらば東京」

- ④ 先週に続いて、故・中野忠晴特集の2回目。ゲストに夫人の中野照子と吉田信を迎えて、思い出話を聞く。

一曲目の「小さな喫茶店」は昭和10年の曲で、当時としては新しい感覚のタンゴの曲で、喫茶店の流行と共に大いにヒットした。

この他「バンジョーで唄えば」「チャイナ・タンゴ」など彼自身がプロデュースし自ら歌った曲などを原盤のSPレコードで聞く。

5月10日

- ①江口夜詩 #79
- ②江口浩司

③「哀しき口笛」「忘れぬ花」「十九の春」「時雨ひととき」

- ④ 今夜はギランバレー氏病という難病で病床生活を続けている作曲家・江口夜詩を激励する特集その1。
海軍軍楽隊から作曲家へと転身した江口夜詩は、昭和7年「哀しき口笛」でデビュー。以後「忘れぬ花」「時雨ひととき」「十九の春」と大ヒットを飛ばすが、いわゆる江口調は不思議な魅力でファンにアピールした。
なお、「十九の春」には、「美人コンテスト」「水の江瀧子ストライキ事件」など多くのエピソードがある。
今夜はポリドール時代とコロムビア時代にスポットを当て、病床の江口に代わって、子息の作曲家・江口浩司らが原盤のレコードを聞きながら当時を偲ぶ。

5月17日

- ①江口夜詩 #80
- ②江口浩司

③「秋の銀座」「夕日は落ちて」「花嫁行進曲」「急げ幌馬車」「夜霧の波止場」

- ④ 今夜は先週に引き続き、江口夜詩特集。
作曲家・江口夜詩は歌手のスカウト育成にたけ、その門下から松平晃、ミス・コロムビア、近江俊郎、小畑実、津村謙、春日八郎、曾根史郎といった逸材が輩出しているが、今夜は、コロムビアの江口夜詩全盛時代を原盤のSPレコードを聞きながら偲ぶ。

5月24日

- ①岡晴夫追悼 #81

- ②
- ③

- ④ 読売新聞東京版朝刊には「江口夜詩特集」と書いてあり、当初は江口夜詩特集の3回目を放送する予定であったと思われる。
ラジオ関東でしか放送されていない模様であるが、近畿放送の昭和46年4月27日放送分が岡晴夫特集（詳細不明）となっており、ひょっとしたらこの回を放送したのかもしれない。

5月31日

- ①江口夜詩 #82
- ②江口浩司
- ③「長崎のザボン売り」
- ④

6月7日

- ①藤原義江 #83
- ②藤原義江
- ③「出船の港」「出船」「波浮の港」

- ④ わが国オペラ運動の先駆者、テノール歌手の藤原義江をゲストに迎える。
日本に外資系レコード会社が出現したのは昭和2年だが、藤原義江の「波浮の港」は記念すべき第一号レコードとなった。当時のレコードは大半が黒レーベルで定価が1円50銭だったが、藤原義江のレコードは全部赤レーベルで2円50銭と高かった。原盤でヒット曲を聞きながら、今年72歳になる藤原義江にエピソードの数々を聞く。
また、はじめ日本一のハムレット役者になろうと志し、戸山英次郎の芸名でデビュー。その後、美声をかわれてオペラ歌手に転向したいきさつなどを語る。

6月14日

- ①藤原義江 #84
- ②藤原義江
- ③「鉦をおさめて」「討匪行」「つわもの唄」「太平洋行進曲」
- ④ オペラ歌手・藤原義江特集の第2回。

昭和7年、藤原の自作自演の曲「討匪行」は、反戦的な詩のため発禁になった。この時のエピソードを中心に、現代歌手、音楽界への批判、30年前のプロ野球の模様などを大いに語る。

高音部のびょうようとした藤原の節回しはちょうど絹糸のようなテリとツヤがあり、これは「藤原ブシ」と言われたが、歌手は自分のブシを持たなければいけないという。

今年72歳の長老・藤原義江が今の若い歌手に訴える言葉はそのまま社会時評にもなりそうだ。

6月21日

- ①東海林太郎1 #85
- ②東海林太郎、榊原道雄
- ③「赤城の子守唄」「山は夕焼け」「国境の町」「むらさき小唄」
- ④ 今夜から4回にわたって東海林太郎特集を送る。

東海林太郎がスターになったのは「赤城の子守唄」の大ヒットからだ。それまではヤクザものなど縁もゆかりもなかった東海林は歌う時大変困ったという。オペラ調子で歌おうと決心したら佐藤惣之助に「男が泣く唄だよキミ」と言われたという。

6月28日

- ①東海林太郎2 #86
- ②東海林太郎、榊原道雄
- ③「高瀬舟」「忠治子守唄」「麦と兵隊」「名月赤城山」
- ④ 先週に引き続き、歌謡界の大御所・東海林太郎の歌に耳を傾けながら、これらの歌にまつわる数々のエピソードを披露する。

今夜は「高瀬舟」から「名月赤城山」までをオリジナルの原盤SPレコードで聞きながら東海林太郎の人となりや浮き彫りにするが、いわゆる歌謡曲を文芸歌謡に昇華させたところに、人間東海林太郎の真骨頂がある。

ゲストは東海林太郎と、日本音楽事業者協会事務局長の榊原道雄。東海林太郎の歌のよさが最もよく表れている「忠治子守唄」「麦と兵隊」も聞く。

「高瀬舟」「忠治子守唄」は低音から高音に至るまで幅の広い音域を持ち、東海林が歌の道に精進するためにはもってこいの曲であった。

また、東海林は、現代の歌手が裏声を使ったり、マイクを利用して器用に歌っているが、それは歌の邪道だと批判する。

7月5日

- ①東海林太郎3 #87
- ②東海林太郎、島田馨也
- ③「湖底の故郷」「旅笠道中」
- ④ 詩人の島田馨也を迎えての東海林太郎特集の1回目。作曲家の故・大村能章に対して東海林太郎が抱いた最初の印象は「歌手としては乙の下」だったという。大村は「甲の上になるよう努力します」と答えたが、勝手なことをいうなァと思った…など。

思い出話をはさみ、往年のヒット曲を送る。なお朗詠の得意な島田が東海林太郎を讃える歌を歌う。

7月12日

- ①東海林太郎4 #88
- ②東海林太郎、島田馨也
- ③「人生航海」「泣き笑いの人生」「東京物語」「軍事郵便」「小諸追分」
- ④ 東海林太郎特集。詩人の島田馨也を迎えての2回目。

島田は「泣き笑いの人生」「人生航海」などの作品がヒットし、人生詩人として一般に知られるようになったが、酔うと電信柱によじ登り大声で歌を歌うなど、仲間から電柱詩人と呼ばれていた。その他ほほえましいエピソードを交えて東海林太郎特集を送る。

7月19日

- ①高橋掬太郎 #89
- ②松岡醇三
- ③「片瀬波」「酒は涙か溜息か」「下田夜曲」「利根の舟唄」
- ④ 去る4月9日、69歳で世を去った作詞家・高橋掬太郎を偲ぶ特集。

昭和6年のある日、コロンビアの文芸部に一通の投書が舞い込んだ。中身は一編の詩で、これを古賀政男先生に作曲してほしいと書いてあった。差出人は高橋掬太郎。これが名曲「酒は涙か溜息か」誕生のエピソードだが、これを契機にコロンビアで高橋掬太郎時代を築く。

今夜は、特に今度発売になった日本コロンビア設立60周年記念オリジナル盤による「明治・大正・昭和日本流行歌の歩み」のレコードを使う。

7月26日

- ①女性歌手集 #90
- ②松岡醇三
- ③「復活唱歌」「籠の鳥」「赤い睡蓮」
- ④ 全国のレコード収集家が保存する古いレコードを集め、これをLPに復刻した「明治・大正・昭和日本流行歌の歩み」が、なつメロ愛好家の間で話題を呼んでいる。そこで、この中に収められた女性歌手の歌を、松井須磨子から李香蘭(山口淑子)まで聞きながら、当時のエピソードを探る。

また、このレコードの制作に当たったコロンビアの松岡醇三が制作苦心談を披露する。

「復活唱歌」は女優・松井須磨子が歌っているもので、上手ではないが珍しいもの。また、秋山静代の歌う「ジンジログ」は作詞者の高橋掬太郎が浅草で、あるインド人と大喧嘩したあと仲直りして教えてもらった歌をアレンジしたもの。後の森山加代子のヒット曲のもと歌である。

8月2日

- ①東海林太郎5 #91
- ②東海林太郎、湯川容輔
- ③「流転まつり唄」「母に捧ぐる唄」「玄海の月」「島ちどり」
- ④ 今夜から再び東海林太郎特集。

東海林太郎には数多くのファンがいるが、今夜は、東海林太郎吹込みのレコード2千曲を収集し、「天皇陛下の次に偉いのが東海林太郎である」と信じている熱狂的なファン——神戸在住の公務員・湯川容輔が秘蔵レコードの中から珍品を披露する。

8月9日

- ①東海林太郎6 #92
- ②東海林太郎、湯川容輔
- ③「どぶろくの辰」「さらば赤城よ」「椿姫の唄」「土と兵隊」
- ④ 東海林太郎特集6回目。今夜も先週に続いて、熱狂的な東海林太郎ファン、神戸の公務員・湯川容輔が秘蔵のレコードから珍品を披露する。

「自分の人生を東海林太郎にかけた」という湯川は、この貴重なコレクションを子孫まで伝えていきたいと目を輝かせ、東海林太郎と握手するとその場で泣き崩れてしまう。

8月16日

- ①美ち奴 #93
- ②美ち奴、島田馨也
- ③「あゝそれなのに」「あゝ恋無情」「細君三日天下」
- ④ 今夜は美ち奴特集の第1夜。

昭和11年に大ヒットした「あゝそれなのに」は、発売禁止になるまでに当時としては記録的な数である90万枚のレコードを売りつくした。当時この曲の替え歌が多く作られそれをメモした手帳を美ち奴が取られ、それを返してもらう時に警察で絞られた話などをゲストの島田馨也を交えて聞く。

また、当時一緒に仕事をした杉狂児にも電話で思い出話を聞く。大正6年、北海道で生まれた久保染子という少女が、美ち奴として華々しくデビューするまでの思い出を語り合う。

8月23日

- ①美ち奴 #94
- ②美ち奴、島田馨也
- ③「鈴鹿追分」「軍国の母」「霧の四馬路」「吉良の仁吉」
- ④ 先週に続いて美ち奴の特集を送る。

昭和11年から12年にかけてテイチクレコードは古賀メロディーを藤山一郎、ディック・ミネ、楠木繁夫、美ち奴が歌って全盛時代を迎えたが、今夜は美ち奴の交友録を紐解きながら思い出の歌を原盤で聞く。

8月30日

- ①上原敏1 #95
- ②秩父重剛、片桐鉄之助
- ③「露営の一夜」「暁の塹壕」「妻恋道中」
- ④ 太平洋戦争で戦死した上原敏の歌を4回にわたり特集する。

四分六に綺麗に分けた頭髪、痩せ型で面長のロイド眼鏡、美声ではないが伸びのある低音、淡々とした唱法は、昭和戦乱期における灰色の青春の心の糧として、心の泉として広く大衆の心を捉えた。

昭和19年7月29日にニューギニアで戦死した上原敏の27回忌の法要が、去る7月25日、東京・芝の増上寺で営まれたが、今夜はスタジオに上原敏の義兄で作詞家の秩父重剛、東京在住のファン・片桐鉄之助の両氏を招いて、27回忌の模様を録音で聞きながら片桐秘蔵の珍品レコードを紹介してもらう。

9月6日

- ①上原敏2 #96
- ②藤田まさと
- ③「妻恋道中」「流転」「鴛鴦道中」
- ④ 上原敏特集その2。

人気俳優上原謙の上原、フランス文学者上田敏の敏をとって上原敏という芸名ができたが、昭和12年、藤田まさと作詞の「妻恋道中」を歌って文字通りスターダムにのし上がった。

今夜はスタジオに藤田まさとを招いて、ヒット曲をエピソードを伺いながら原盤で聞く。特に「流転」は藤田まさとと作曲家・阿部武雄が大森の料亭で芸者を総見、20日間居続けして芸者の反応を見ながら書き上げた話や、先日亡くなった西城八十が「流転」を聞くとあの世へ吸い込まれそうな甘美な味があると激賞した話など、裏話が多い。

9月13日

- ①上原敏3 #97
- ②藤田まさと
- ③「親恋道中」「木曾の流れ唄」「石松旅だより」「波止場気質」
- ④ 「上原敏、敏さんは本当にいる人だった。敏さんを失ったさびしきは27年前も今も変わらない。」作詞家・藤田まさとはしみじみ語る。

スタジオに藤田まさとを迎え思い出話を聞くが、特に今夜は、今は亡きエノケン司会の前線兵士慰問の珍品レコード「歌は前線へ」をかけ、生前の上原敏の肉声を聞く。エノケンのリクエストに応じて上原敏がコミカルに「波止場気質」を歌うのが面白い。

9月20日

- ①上原敏4 #98
- ②藤田まさと
- ③「妻恋旅姿」「追分道中」「鴛鴦春姿」
- ④ 上原敏特集の第4夜。

上原敏は堅い人物で浮いた話はないが、酒はめっぽう強いということであった。東海林太郎、高田浩吉、それに上原敏の3人が京都で酒を飲んだ時のこと、夕方5時から翌朝9時までぶっ続けて飲んだが、その後、東海林太郎を1キロ余りの道のりをホテルまで送っていったというエピソードがある。

こうした話をゲストの藤田まさとに聞きながら綴っていく。

9月27日

- ①100回記念リクエスト #99
- ②藤田まさと、広中雅幸、木村孝雄
- ③「旅姿三人男」(ディック・ミネ)、「国境の町」(東海林太郎)、「旅の夜風」、渡辺はま子の歌
- ④ この番組も来週で100回目を迎える。そこで今夜から3週にわたって100回記念特集を送る。

今までこの番組に登場した人々は、歌手30人、作詞家10人、作曲家10人で、なつメロ関係者全員を網羅した感があるが、聴取者からは、誰々の特集を聞き漏らした、何々の歌を聞き損なったので再放送をという要望がしきりで、この際、こういう聴取者のリクエストに応えようというもの。

10月4日

- ①100回記念リクエスト #100
- ②藤田まさと、広中雅幸、木村孝雄
- ③「湖畔の宿」(高峰三枝子)、「男の純情」(藤山一郎)、「明日はお立ちか」(小唄勝太郎)、「暁に祈る」(伊藤久男)

- ④ 放送100回記念の”総集版”の第2夜。今夜は、今までこの番組に登場した歌手、作詞家の中で評判のよかつたものから、勝太郎、藤山一郎、伊藤久男、高峰三枝子ほかの歌をダイジェストして放送する。

「湖畔の宿」が発売禁止になったのに東条首相に呼ばれた高峰三枝子がモンペ姿で灯火管制の首相官邸で灰田勝彦の伴奏で「湖畔の宿」を歌わせられた話とか、「男の純情」を聞いて藤山一郎が当時の録音風景を思い出し、ハワイアン・ギター伴奏のディック・ミネが梯子に足をかけてマイクに近づいたワンポイント(マイク一本のみ)の昔をなつかしがる話は、日本歌謡史に記録しておきたい裏話だ。

10月11日

- ①100回記念リクエスト #101
- ②藤田まさと、広中雅幸、木村孝雄
- ③「啼くな小鳩よ」「人生劇場」「東京の花売娘」、音丸の歌
- ④ 100回特集の第3夜。

過去の放送で色々反響があったが、楠木繁夫特集で、まだ楠木繁夫の墓がないことを放送すると、楠木繁夫夫妻の比翼塚を建てようと聴取者の方たちが、日本歌手協会会長・東海林太郎、日本作曲家協会会長・古賀政男、日本作詞家協会会長・藤田まさとの各氏を動かし、近く楠木繁夫比翼塚建設運動が始まることになった。こうした思い出を振り返って、今夜は岡晴夫、楠木繁夫、菊池章子ほかの歌と声でつづる。なお比翼塚建立の話は、昭和45年3月21日付読売新聞東京版朝刊においても取り上げられている。

10月18日

- ①上原敏5 #102
- ②鈴木幾三郎、秩父重剛
- ③「裏町人生」「上海だより」「いろは仁義」
- ④ 再び上原敏特集を送る。

スタジオに当時ポリドール・レコード社長の鈴木幾三郎と義兄の作詞家・秩父重剛を招いて、今までの歌謡史にない秘話を聞く。特に、上原敏のデビュー曲は「恋の絵日傘」であるという定説に対して鈴木社長が、実はその前に「恋の網笠」があったと証言するのは興味深い。

10月25日

- ①上原敏6 #103
- ②鈴木幾三郎、秩父重剛
- ③「安兵衛ぶし」「北満だより」
- ④ 今夜もスタジオに元ポリドール・レコード社長の鈴木幾三郎と義兄の作詞家・秩父重剛を招いて、上原敏にまつわる秘話を聞く。

当時「格調高いビクター、甘い歌謡曲のコロンビア」に対抗して、ヤクザ路線で切り込んで成功したポリドールには、A面を東海林太郎で、B面を上原敏でという強カスタッフがあったからだという裏話など。

11月1日

- ①サトウハチロー #104
- ②サトウハチロー
- ③「麗人の唄」「二人は若い」「お蝶夫人の唄」「古き花園」
- ④ ”永遠の青年”と言われる詩人、サトウハチロー特集。

サトウハチローは、戦前・戦中の灰色時代に、青空を見るような夢を感じさせ、大衆の心をとらえた。昭和5年、サトウハチローが27歳の時、菊田一夫と一緒にやっていたラルルレロ玩具製作所が経営難に陥り、大衆食堂で一合8銭の安酒と一丁2銭の冷や奴で一杯やりながら書いたのが「麗人の唄」。これが、父・佐藤紅緑原作の「麗人」の映画主題歌になったのを機に、流行歌を書くようになった。彼の知られざるエピソードとともに彼のヒット作を聞く。

11月8日

- ①サトウハチロー #105
- ②サトウハチロー
- ③「目ン無い千鳥」「小雨の丘」「めんこい仔馬」「夢淡き東京」
- ④ 今夜は先週に続いてサトウハチロー特集その2を送る。

永遠の詩人と言われるサトウハチローは、常に生活の底に流れるペーソスあふれる作品で、人々の心に触れる作品を作ってきた。その意味からしてもあの幅広い作品が大衆に受けたのだが、今夜はその幅広いレパートリーから「目ン無い千鳥」「小雨の丘」「めんこい仔馬」「夢淡き東京」他を送る。

11月15日

- ①松島詩子・細川潤一 #106
- ②松島詩子、細川潤一
- ③「潮来の雨」
- ④ 今夜から3回にわたって、「マロニエの木陰」「友よいつこ」「上海の踊り子」などの傑作を生んだ作曲家・細川潤一と歌手・松島詩子の名コンビの特集を送る。
昭和7年のある日、電気技師・浅川正躬と女学校の音楽教師・内海シマがキングレコードのスタジオで偶然出会い、これが日本歌謡史にひとつのエポックを作る結果になった。
このコンビこそ数年後の作曲家の細川、歌手の松島であった。
今夜はスタジオに細川潤一、松島詩子の2人を招き、今まで活字になっていない秘話を聞きながらなつメロを原盤で聞く。

11月22日

- ①松島詩子・細川潤一 #107
- ②松島詩子、細川潤一
- ③「僕の父さん」「母子船頭歌」
- ④ 昭和12年3月、戦時中にしては珍しい心の洗われるような美しい曲が世に出た。
細川潤一作曲で松島詩子の歌う「マロニエの木陰」。当時、敵性音楽反対のご時世で、この珠玉のようなタングに会社は冷たく宣伝もしなかったが、戦後にわかにリバイバルした。松島詩子は昭和21年と41年にも吹き込んだが、細川潤一は昭和12年の原盤が一番いいと言う。
今夜はスタジオに2人を招き、名作誕生の秘中の秘を聞く。

11月29日

- ①松島詩子・細川潤一 #108
- ②松島詩子、細川潤一
- ③「上海の踊り子」「広東の踊り子」「勘太郎子守唄」「喫茶店の片隅で」「船は港にいつ帰る」
- ④ 今夜の聞きものは「上海の踊り子」と「広東の踊り子」。昭和15年、細川、松島の名コンビで踊り子シリーズが大ヒットした。
中華料理でも上海料理と広東料理で味が違うように、「上海の踊り子」と「広東の踊り子」の作曲には苦心して、わざわざ上海と広東に旅行して二つの町の違いを肌で感じ取ってきたという。
更に今夜は細川潤一、松島詩子が交友録を紐解くが、あたかも当時のキングレコード・オールスター・パレードの趣があり、同じ人でも作曲家から見た目と歌手からの目の違いがあって面白い。

12月6日

- ①古関裕而 #109
- ②古関裕而
- ③「紺碧の空」「利根の舟唄」「船頭可愛いや」
- ④ 3回にわたって、古関裕而をゲストに、彼の作品を集める。
昭和5年6月、当時としては破格の契約金200円でコロムビアの作曲家となった21歳の青年・古関裕而はヒット曲が出ず、肩身の狭い思いをしていたが、早稲田大学応援歌「紺碧の空」、そして昭和9年夏「利根の舟唄」でヒット。昭和10年夏「船頭可愛いや」で大ヒット。昭和12年秋「露営の歌」で大ホームラン。古関裕而の名を不動のものとした。
今夜は古関裕而が「露営の歌」にまつわる秘中の秘を披露する。

12月13日

①古関裕而 #110

②古関裕而

③「暁に祈る」「若鷺の歌」「愛国の花」「海の進軍」

④ 作曲家の古関裕而をゲストに、彼の一連の戦時歌謡曲を、その思い出とともに聞く。陸・海・空の傑作軍歌「暁に祈る」「海の進軍」「若鷺の歌」の誕生の動機を語る。

「あゝあの顔である声で、手柄頼むと妻や子が…」戦時中、戦前と言わず銃後と言わず、この歌ほど声高らかに、涙ながらに歌われた歌はない。そして戦後も日本人の心の歌として今なお生きている「暁に祈る」。

当時、陸軍省・馬政課長の栗林忠道大佐のアイデアで作られたもので望郷の念に駆られる兵隊の心を、祖国愛と馬への愛情で色づけしながら、大きくうねる調律の中に生き生きと描き上げた戦時歌謡の傑作。ところが野村俊夫の詩が陸軍省の気に入らず、書き直し8回目、ヤケ気味で「あゝあ、あの顔で…」とやったらやっとならなくなったという。

昭和13年に発表された「愛国の花」は、前奏のユニークさ、人々の共感を呼ぶメロディー・歌詞でヒット。

12月20日

①古関裕而 #111

②古関裕而

③「夢淡き東京」「長崎の鐘」「鐘の鳴る丘」「君の名は」「忘れ得ぬ人」

④ 今夜はスタジオに古関裕而を招き、「君の名は」の春樹と真知子のエピソードなどを中心に古関メロディーの戦後版を紐解く。

12月27日

①服部良一・富子 #112

②服部良一、服部富子

③「別れのブルース」「雨のブルース」

④ 3回にわたって、この19日に東京・銀座のヤマハホールで”あに・いもうとの会”を開いて、その健在ぶりを示した作曲家の服部良一、歌手の服部富子特集する。

第1夜は、服部兄妹に、この会の企画目的、古賀政男や大村能章といった先輩作曲家に対抗した服部メロディーの秘密、服部富子のデビュー曲「満州娘」の裏話などを送る。

昭和46年1月3日

①服部良一・富子 #113

②服部良一、服部富子

③「湖畔の宿」「牡丹の曲」

④ 作曲家の服部良一と歌手の富子兄妹特集の第2夜。今夜の聞きものは、山田五十鈴が吹き込んだ珍品レコード。

服部良一作品の中でも、山田が歌った曲は、ユニークなものとして知られている。昭和16年、映画「上海の月」の主題歌「牡丹の曲」がそれだが、演技派の彼女もオーケストラの前ではあがりっ放しでNGの連続。最後は1人スタジオの壁に向かいひっそり歌ったという。ところがこれが大ヒット。

今夜はスタジオに服部良一、服部富子の兄妹を招き、服部メロディーの秘密を聞く。

なお、山田の「牡丹の曲」について、放送日当日の京都新聞朝刊では「彼女の最初で最後のレコードになりそうだ。」、中日新聞朝刊では「山田の最初で最後のレコードとなっている。」とそれぞれ紹介されている。

1月10日

- ①服部良一・富子 #114
- ②服部良一、服部富子
- ③「夜のプラトホーム」「銀座カンカン娘」「小鳥娘」「青い山脈」
- ④ 服部良一、富子の兄妹をスタジオに招いて、服部特集その3夜。

戦後一世を風靡したブギのリズムをいち早く取り入れ流行歌にした中で、ブギの女王と言われた笠置シズ子が日劇の舞台からオーケストラ・ボックスに落ちたという話や、「青い山脈」を作る時、大阪から京都へ行く電車の中でメロディーをハーモニカの符号で手帳に書いていたところヤミ屋に間違われた話など。

いつものようにヒット曲の裏話を交えながらレコードを聞く。

1月17日

- ①レイモンド服部 #115
- ②レイモンド服部
- ③「戦場の子守唄」
- ④ 今夜から3回にわたって、アナウンサー出身のユニークな作曲家・レイモンド服部の特集を送る。

本名、服部逸郎。明治40年、横浜生まれ。ハワイのホノルル、ブナホワ音楽学院で声楽と作曲を専攻した後帰国。「港の別れ」「南国の夕映え」など、当時としてはバタ臭い作曲を手掛けていたが、東海林太郎の「忠治子守唄」の作曲で、一躍異色の作曲家として注目された。

今夜はスタジオにレイモンド服部を迎え、アナウンサー時代の思い出や「忠治子守唄」にまつわる裏話を聞く。

1月24日

- ①レイモンド服部 #116
- ②レイモンド服部
- ③「小諸追分」「親恋道中」
- ④ レイモンド服部特集その2回。

昭和14年、巷では「父よあなたは強かった」「兵隊さんよありがとう」といった戦時歌謡が歌われている時代。たった1枚の赤紙で戦場に召集されていく小市民の親子の情を切々と歌い上げたのが「親恋道中」で、上原敏のしみわたるような歌声が全国に流れる一方、東海林太郎の「ハルビン旅愁」もレイモンド服部のノスタルジーとして愛唱された。

彼に言わせると作曲もインタビューも全く同じで、パートの楽器に機会均等に音を出させるのがコツだという。

1月31日

- ①レイモンド服部 #117
- ②レイモンド服部
- ③「ゴメンナサイ」「バラのようなお嬢さん」
- ④ レイモンド服部特集の3回目。

終戦直後の日本の歌謡曲には、アメリカのCIEの音楽政策で、植民地根性丸出しの迎合的なアメリカものが流行した。「ゴメンナサイ」を作曲したレイモンド服部は国民大衆から白い目で見られて大きな体を小さくしたという。

そしてお座敷ソングの流行は、「とこ姐さん酒もってこい…」の「ヤットン節」となり、退廃ムードの頂点は「タマラン節」となる。

今夜はスタジオにレイモンド服部を招き、これら一連の歌の流行が果たした社会的な役割について聞く。

2月7日

- ①清水みのる #118
- ②清水みのる
- ③「島の船唄」「出船の唄」「別れ船」
- ④ 今夜から2週にわたり”船ものシリーズ”の作詞家・清水みのるの特集を送る。

日本に民放ができて20年。今やCMソングは国民の生活にとけこんでいるが、日本で初めてのCMソングは、今から40年前の昭和6年にキャラメルメーカーが発表した「僕は天下の人気もの」(歌・古川ロッパ)。4万通の公募の中から当選した作詞者は、当時ポリドール・レコードの発送係でありサトウハチローの弟子だった清水みのる。以来、田端義夫のデビュー曲「島の船唄」など”船もの”を作曲家・倉若晴生と組んで次々と世に送った。

今夜はスタジオに清水みのるを招き、デビュー当時の話から一連の船の歌を作ったいきさつやエピソードを聞く。

2月14日

- ①清水みのる #119
- ②清水みのる
- ③「かえり船」「星の流れに」「雨の酒場で」
- ④ 今夜は「船ものシリーズ」の作詞家・清水みのるの戦後版を紐解く。

戦地で帰国の日の流れ星で占ってやっと復員した清水みのるを待っていたのは、東京の荒廃と星空の悲しいまでの美しさだったという。

タブロイド版の新聞に載った23歳の看護婦の投書—

私は引き揚げ者ですが、住むに家なく、勤めるに職ありません。ニギリ飯一つで私は夜の女になってしまった…。

これを読んで涙ながらに一気に書き上げたのが「星の流れに」。

今夜はスタジオに清水みのるを招き、戦後の悲痛な思い出をなつメロとともに聞く。

2月21日

- ①奥田良三 #120
- ②奥田良三
- ③「命かけて唯一度」「お菓子と娘」
- ④ 今夜から2週にわたってテナー奥田良三の特集を送る。

やわらかい美声、ピアノシモのテナー歌手でありながら極端な誇張のない淡々とした抒情的唱法はこの道50年、昔も今も変わらず人柄を偲ばせる。

奥田は50年ほど前、「お菓子と娘」を歌ってデビュー。昭和9年には、ドイツ映画の主題歌を歌って大ヒットさせた。そのドイツ映画「会議は踊る」「狂乱のモンテカルロ」などの主題歌をドイツで吹き込んだ時の裏話など、日本歌謡史に残る貴重な話も披露する。

2月28日

- ①奥田良三 #121
- ②奥田良三
- ③「城ヶ島の雨」「夜明けの唄」
- ④

3月7日

- ①竹岡信幸 #122
- ②竹岡信幸
- ③「赤城の子守唄」「青空に唄へ」「城ヶ島夜曲」「下田夜曲」
- ④ 今夜から3回にわたり、作曲家・竹岡信幸特集。

明治40年、横浜に生まれた竹岡信幸は昭和の初め、明大マンドリンクラブで古賀政男と一緒にマンドリンを弾いていたが、アルバイトで作曲した「明治キャラメル唄」が日本最初のCMソングということもあって話題となり、豊かな天分を認められるきっかけとなった。

そして、プロ入りの第一作「赤城の子守唄」で歌った東海林太郎とともに一躍世に出た。

今夜はスタジオに竹岡信幸を招き、東海林太郎の「赤城の子守唄」吹込みのエピソードを中心に竹岡メロディーの秘密を聞く。

3月14日

- ①竹岡信幸 #123
- ②竹岡信幸
- ③「人妻椿」「赤城しぐれ」「支那の夜」「悲しき子守唄」
- ④ 今夜は先週に続いて、作曲家・竹岡信幸特集第2夜。

竹岡の奥さんは、元オリンピック水泳選手の横田操。2人のそもそものなれそめから話が始まる。

昭和13年の松竹映画「愛染かつら」は世の女性の”紅涙”を絞った。この中でヒロインの高石かつ江(田中絹代)が歌う「悲しき子守唄」が、田中絹代の肉声として話題になったが、実はミス・コロムビアの吹き替えだったという。

そして最後に「支那の夜」にまつわる裏話。戦後この曲は米軍に接収されたが、その後ビクター・ヤングが音楽監督を担当した映画「零号作戦」に「支那の夜」と同じメロディーが使われていて驚いた話など、ヒット曲にまつわる話を聞く。

3月21日

- ①竹岡信幸 #124
- ②竹岡信幸
- ③「白蘭の歌」「上海航路」「長崎のお蝶さん」「東京の人よさようなら」
- ④ 今夜は作曲家の竹岡信幸特集その3。スタジオに竹岡信幸を招いて、ヒット曲にまつわる裏話を聞く。

メロディーづくり40年という竹岡信幸には話題が多い。「長崎のお蝶さん」(渡辺はま子)は”長崎もの”のはしりになったし、昭和14年に発売された「白蘭の歌」では満州国の国歌を間奏に入れたユニークな作風が評判になった。

「白蘭の歌」は作詩が久米正雄になっているが、あの詩を作ったのは実はサトウハチローで、作曲した竹岡信幸自身しばらくの間は知らなかったという話や、この曲の間奏には満州国歌のメロディーを使った話など、興味深い話が披露される。

3月28日

- ①飯田景応 #125
- ②島田馨也
- ③「従軍記者」「僕の思い出」「人生航海」
- ④ 今夜から3週にわたって、今は亡き作曲家・飯田景応の特集を送る。

大正5年2月5日、加賀百万石の城下町金沢に生まれた丹羽景応(かげまさ)が、作曲家・飯田景応としてデビューしたのは、昭和11年の「僕の思い出」というエジソンレコード。作詞は人生詩人の島田馨也、歌は無名の新人、坂本英明だった。坂本こそ後の霧島昇である。

その後、飯田は島田とコンビで昭和13年に「泣き笑いの人生」「人生航海」を出し飯田メロディーが開花するが、この2曲は、特に飯田景応の人間性が五線譜に躍動して人の胸を打った。

今夜はスタジオに故人と親交のあった詩人の島田馨也を招き、島田・飯田コンビが生んだ一連のヒット曲をオリジナル盤で聞きながら飯田メロディーの秘密を聞く。

4月4日

- ①飯田景応 #126
- ②島田馨也、青葉笙子
- ③「波止場気質」「部隊長と兵隊」「故郷慕えど」「仏印だより」「兄妹」
- ④ 今は亡き飯田景応を東海林太郎は「天才ハダの作曲家」と言い、古賀政男は「日本の歌謡界における作曲家ベスト3の一人」と評価するが、昭和42年1月3日、50歳の若さでこの世を去った。
飯田メロディーで幾多の歌手が輩出するが、男性歌手第一号を霧島昇とすれば、女性歌手第一号は青葉笙子。昭和14年発売の「故郷慕えど」は作詞の島田馨也が熊本、作曲の飯田景応が金沢、歌手の青葉笙子が仙台と、三者三葉に故郷を慕う望郷ソングとして人々の心を捉えて大ヒットとなった。
今夜はスタジオに島田馨也、青葉笙子を招き、当時のオリジナル盤を聞きながら故人を偲ぶ。

4月11日

- ①飯田景応 #127
- ②飯田応樹、島田馨也
- ③「仏印だより」「東京物語」「十字路」「月の法善寺横町」「初恋ワルツ」
- ④ 今は亡き作曲家・飯田景応の忘れ形見・丹羽応樹が、3月5日東芝レコードから歌手「にわまさき」としてデビューした。弱冠19歳ながら父親譲りで作曲もして歌う「十字路」は話題を呼んでいる。
今夜はスタジオに詩人の島田馨也とにわまさきの2人を招き、友人として飯田景応、父親としての飯田景応を偲ぶが、最後に島田馨也が即興の俳句を朗詠する。

4月27日(近畿放送のみ)

- ①岡晴夫
- ②飯田応樹、島田馨也
- ③「東京の花売娘」「上海の花売り娘」「国境の春」
- ④ 岡晴夫特集。
生前この番組で一度特集を組んだことがあるが、その後聴取者の再放送要望の投書が多いので、生前収録したテープと、上原げんと特集の際ゲスト出演した時の声を構成して再び特集として送るもの。
この回は近畿放送のみで放送されており、放送回数にはカウントされていない。

4月18日

- ①小野巡 #128
- ②小野巡、福田俊二
- ③「祖国の護り」
- ④ 近畿放送では昭和47年4月に初めて放送(第178回)されたようである。

4月25日

- ①小野巡 #129
- ②小野巡、福田俊二
- ③「西湖の月」
- ④ 前週に引き続き、昭和47年4月に初めて放送(第179回)されたようである。

5月2日

- ①藤山一郎 #130
- ②藤山一郎
- ③「丘を越えて」「影を慕いて」
- ④ 今夜から3回にわたって藤山一郎特集を送る。今夜はその第一夜として「キャンプ小唄」から「影を慕いて」までのそれぞれのヒット曲にまつわる話を聞く。
藤山一郎の場合「キャンプ小唄」がデビュー曲として知られているが、それ以前大正12年に童謡を歌ったことがある。また「酒は涙か溜息か」を発売した後、音楽学校を停学にされた話など、興味ある話が披露される。

5月9日

- ①藤山一郎 #131
- ②藤山一郎
- ③「東京ラプソディ」「青い背広で」「嘆きのピエロ」
- ④ 藤山一郎特集その2。東京音楽学校を首席で卒業した藤山一郎の文字通りプロ第一作は、ビクターで昭和8年3月発売の「僕の青春(はる)」。この後、一連の国民歌謡を歌うが、このタイトルが「藤山一郎なつかしのメロディー」。はからずも、ここに「なつメロ」という言葉が誕生した。
今夜はスタジオに藤山一郎を迎え、ビクター、テイチク時代の隠れた秘話を当時の原盤を聞きながら披露する。

5月16日

- ①藤山一郎 #132
- ②藤山一郎
- ③「燃ゆる大空」「なつかしの歌声」「決戦の大空へ」「青い牧場」
- ④ 藤山一郎特集その3。アルバイト時代はコロムビア。プロとしてはビクターからテイチクで全盛時代を迎え、当時日本の歌謡曲の人気を東海林太郎と二分した藤山一郎が再びコロムビアに迎えられたのが昭和14年。「燃ゆる大空」「海の進軍」などの戦時歌謡で沈滞気味の大衆を鼓舞したが、特に「英国東洋艦隊潰滅」はニュース歌謡という新しい分野を開拓した。
今夜はスタジオに藤山一郎を迎え、ニュース歌謡を中心に当時の裏話を聞きながら、なつメロを紐解く。

5月23日

- ①コロムビア戦後篇 #133
- ②松岡醇三
- ③「リンゴの唄」「悲しき竹笛」「三日月娘」
- ④ 今日から流行歌の歩み”戦後編”。歌謡界の女王—美空ひばりがレコード界にデビューしたのは昭和24年8月の「河童ブギウギ」。当時ひばりは11歳だったが、この天才少女の出現を見て、今日の美空ひばりを予言したのが音楽界の大御所・山田耕筰だったという。
昨年、日本コロムビアから発売された「日本流行歌の歩み—明治・大正・昭和編」が昭和45年度日本レコード大賞特別賞を受けたが、今回は戦後編として昭和21年の「リンゴの唄」から32年の「喜びも悲しみも幾年月」まで140曲を収録したオリジナル盤が発売された。
今夜は、当時ひばりのディレクターであり、この企画製作を担当した日本コロムビアの松岡醇三をスタジオに迎え、なつメロを聞きながら、苦心談などを披露してもらおう。
なお、RKB毎日放送では放送されなかった模様。

5月30日

①コロムビア戦後篇 #134

②松岡醇三

③「東京キッド」「この世の花」「あざみの歌」

④ このほど日本コロムビアから、昭和21年の「リンゴの唄」から32年の「喜びも悲しみも幾年月」まで140曲を収録したオリジナル盤が発売されたが、このレコードを企画製作した松岡醇三をスタジオに迎え、ヒット曲にまつわる話を聞く。

なお前週に引き続き、RKB毎日放送では放送されなかった模様。

6月6日

①長津義司 #135

②長津義司

③「高瀬舟」「踏絵」「傷める花束」

④ 今夜から3回にわたって、この道40年—作曲家・長津義司の特集を送る。

昭和7年、タイヨー・レコードから出た「夜の露台」がデビュー作。昭和11年、ポリドールに迎えられて「高瀬舟」「踏絵」を作曲、東海林太郎の名唱とともに作曲家・長津義司が世に出る。

今夜はスタジオに長津義司を招き、浅草時代の苦労を中心に、エノケンとの交流、長津メロディーの本質をオリジナル盤とともに聞く。

6月13日

①長津義司 #136

②長津義司

③「木曾の流れ唄」「大利根月夜」「築地明石町」

④ 今夜は作曲家・長津義司特集の2回目。長津メロディーは日本調センチメンタリズムの極致と言われるが、昭和14年6月に出た「暁の塹壕」は前線の兵隊に戦意を失わせるものとして発売禁止。

しかし、14年11月、暗い時代に生きる庶民の哀感を歌い上げた藤田まさと作詞「大利根月夜」には、浅草のペーソスをぶつけるように作曲して大ヒット。

今夜はスタジオに長津義司を招き、長津メロディーの作曲手法を中心になつメロを紐解く。

6月20日

①長津義司 #137

②長津義司

③「妻恋旅姿」「君忘れじのブルース」「十三夜」「チャンチキおけさ」「鴛鴦春姿」

④ 今夜は作曲家・長津義司特集の3回目。昭和16年4月、ポリドールからテイチクに移籍した長津義司は「十三夜」「君忘れじのブルース」「連絡船の唄」など、泉のわくようにヒット曲を連発する一方、編曲にもユニークな切れ味を見せ、「泪の夜汽車」「岸壁の母」「月がとっても青いから」「船方さんよ」などの大ヒットに寄与する。

今夜はスタジオに長津義司を迎えて、作曲と編曲の相関関係について長津理論を披露する。また、「十三夜」を歌った小笠原美都子が電話で番組に参加。歌手の立場で長津メロディーを語る。

6月27日

①伊藤久男 #138

②伊藤久男

③「暁に祈る」「熱砂の誓い」「高原の旅愁」「白蘭の歌」

④ 今夜から2週にわたって伊藤久男特集。伊藤久男もこの道40年、今年61歳を迎えたが、デビュー当時のB面歌手の苦悩が今もって心の支えであるという。

昭和8年「旅に泣く」でデビューしたがヒットせず、A面のヒットに便乗するB面歌手の悲哀に泣いた。昭和13年「湖上の尺八」でやっと一本立ち。その後「暁に祈る」「高原の旅愁」で一躍スターダムにのし上がる。

その伊藤久男をスタジオに迎え、A面歌手とB面歌手の微妙なライバル意識、ヒット曲の運命などを中心に、この道40年の体験談を聞きながらなつメロを紐解く。

7月4日

- ①伊藤久男 #139
- ②伊藤久男

- ③「黄昏の夢」「イヨマンテの夜」「山のけむり」「君いとしき人よ」「数寄屋橋エレジー」「忘れ得ぬ人」「昔の仲間」
- ④ 今夜は先週に続いて伊藤久男特集の2回目。

戦後カムバック第一作のラジオ歌謡「黄昏の夢」から去年11月、歌手生活40年を記念して歌った「昔の仲間」までの26年間のヒット曲を聞く。この間にはこの歌を歌わないと本当の伊藤久男かどうか疑われるという「イヨマンテの夜」やラジオ歌謡の「山のけむり」、それに「君いとしき人よ」「数寄屋橋エレジー」「忘れ得ぬ人」など一連の「君の名は」シリーズのヒット曲を聞く。

7月11日

- ①番組総括篇 #140

- ②藤田まさと、広中雅幸、木村孝雄

- ③「愛の小窓」(ディック・ミネ)、「旅笠道中」、「バタビヤの夜は更けて」(灰田勝彦)、「裏町人生」(上原敏)

- ④ 今夜から3回にわたり、総集編として、今までの放送を振り返って、話題になった曲や以前の放送の時にはかけられなかった原盤をかけてなつメロを聞く。

昭和43年11月の第1回目の放送は上原敏特集であったが、その中から「裏町人生」を、そして第2回目のディック・ミネ特集から、その時には放送できなかった「愛の小窓」を原盤で送る。聴取者の声を素材に話をすすめ、ゲストには藤田まさとを迎えて裏話を聞く。

7月18日

- ①番組総括篇 #141

- ②藤田まさと、広中雅幸、木村孝雄

- ③「涙の小鳩」「女の階級」「岸壁の母」

- ④ 今夜は過去3年をふりかえっての総集編その2を送る。岡晴夫が生前この番組に出た時の声を再放送する他、この番組に対する聴取者の声を交えながら「涙の小鳩」「女の階級」を、またゲストの藤田まさとの思い出話を織り込んで「岸壁の母」などを聞く。

放送当日の京都新聞朝刊には、「なお今の構成での「この歌・あの人」は、七月いっぱい終わるが、八月からは、新しい形式で「この歌・あの人」を送る予定。」と書かれている。

また、朝日新聞東京版朝刊には「鈴木実」とのクレジットがある。キングレコードの営業本部長と洋楽本部長を歴任していた鈴木実のことであろうか。

なお、中部日本放送では、プロ野球オールスター中継が中止の場合に7月19日(月)21時から放送されるはずであったが、プロ野球が放送された。振替放送はなされなかった模様。

7月25日

- ①番組総括篇 #142

- ②藤田まさと、広中雅幸、木村孝雄

- ③「戦場なでしこ」(青葉笙子)、「特幹の歌」(藤原義江)、「流転」(上原敏)、「国境の町」(東海林太郎)

- ④ 総集編その3。

ゲストに藤田まさとを迎え、青葉笙子、藤原義江、上原敏、東海林太郎の歌を聞く。

締めくくりは東海林太郎の「国境の町」。

曲と曲の間には聴取者の電話インタビューや、藤原義江の現代世相批判の声を聞く。

近畿放送以外ではこの回でいったん最終回を迎える。